

暁鐘の音

124

選択肢のない社会

またも、多くの小学生が犠牲になるといふ悲惨な事件が起きてしまった。私自身が、大阪の生まれなので、やはり気にかかる。今回は「一七歳」ではなかったが、その根っこにある問題は共通しているように思われる。

一九八九年にソ連が解体し、戦後の経済を縛ってきた冷戦構造が解体した。それに歩調を合わせるかのように、世界の経済はグローバル化し、日本の経済も国民経済からグローバル経済へと動き出した。製造業を中心に、生産拠点を海外に求めて多くの企業が出ていった。ユニクロなども、ある意味ではその典型である。高い生産技術を持って、最初から海外に生産拠点を置くという新しい業態をみせた。グローバル経済の恩恵をそのまま表現したようなものである。ただし、その結果として国内に残った産業は「販売業」だけである。

「IT」の普及もあって「労働」の質も変わってきた。ブルーカラー労働者から知識労働者へと、求められる労働のスタイルがシフトしている。知識労働者のスタイルを持たない

い人には、労働の機会が大きく減少するだろう。このような知識労働者へのシフトは、戦後の日本経済の復興を支えた年功賃金や終身雇用を前提とした「社会主義的制度」に対しても、その幕を降ろさせようとしている。これまでは、一つの組織に長く居続けることが美德であった。賃金もそれに合わせて意図的に平準化してきた。そうして、世界の製造基地としての役割を担って来たのである。だが、今のままではその役目は終わってしまう。

今、日本が為すべきことは、国を挙げての「転換」である。二十一世紀に於ける日本の役割を見据えて、教育をはじめ、産業界全体の重心の移動が必要なのである。場合によっては、古い殻を捨てても、新しい分野に打って出るくらいの行動が必要なのである。既存の銀行が新しい世界の秩序に転換することを待っている間は間に合わない。「自分たちが居なければ」という甘い気持ちがあるから、彼らは進んで自らを変革しようとはしなかった。逆に一〇年もの間、「ヒル」のように国民から血を吸い続けた。そして、これからも吸い続けるだろう。

「不良債権問題」に血道を上げれば、それは既存の銀行の思うつぼだ。彼らには「担保主義」に代わる経営はできない。それは不良債権問題が解決

しようと同じことだ。どうせ、二十一世紀には役に立たない銀行なのである。それよりも、「バンカー」としての経営ができる銀行を増やしていけばよい。利用者に選択肢を与えるようにしたほうが良い。

道路特定財源に群がった建築や土木、さらにはその上で甘い汁を吸っている政治家たちも、必死になって既得権を守ろうとしている。彼らのやっていることは、国民の目を晦まして、税金を掠め取ることである。彼らの行動を規制しようとしても、結局、彼らに事業を発注するしかない状態が変わらなければ、解決にはならない。それよりも、外国資本の建築コンサルタントの活動を認める形に選択肢を増やすほうが早い。

学校の現場も同じことである。もっと多様な学校の形態を認めればよい。

今月の一言

メツツで活躍していた新庄選手が足を故障した。以前から「爆弾」だったようだが、前日の一塁へのスライディングの際に痛めてしまったという。放送を見ていて、スライディングの仕方がまづいと思ったが、やはり足を痛めてしまった。前に他の選手が一塁にヘッドスライディングした時は、ベースの上を上手に乗り越えていった。

「新庄はうちのチームにとって特別な選手」 バレンタイン・MLBメツツ監督

「あつ、上手いスライディングをする選手だな」と思ったのを覚えている。それだけに、一塁ベースに引つ掛かるように転げた時は、

もちろん、その変わりルールと監視は必要だが、自由に参入させればよい。公立学校と云えども、経営能力が要らないわけではない。限られた予算の中で、どうすれば時代の求める学校教育ができるのか、ということを実際に考える学校経営があつても良いだろう。職員室の中で、まともに議論もできない状態で、まともな教育サービスができるはずがない。戦後の日本の無競争な教育の世界が、日本の教育を此処まで地に落とした。選択肢の無さが閉塞状態を蔓延させてしまった。そのような閉塞状態の中で、子供がまともに育つとは思えない。

こうした選択肢のない状態が、日本中で歯車を狂わせている。既得権者たちが、新規参入を阻んできたことが、ここにきて表面化した形である。ローンに縛られた大人は、すでにお金の奴隷となつて選択肢を失ってしまった

「やばいかな」と思った。新庄としては、自ら故障者リストに入れて欲しいと申し入れたようだが、これは、本心ではないだろう。本心は相当に悔しいはず。球団から通告される前に、自分か

ちのチームにとって特別な選手」ということで、みんなと行動を共にしながら、様子を見るといふ。素晴らしい決定である。確かにその翌日には故障者リストに入ったとしても、決定を急ぐ必要はなかったのである。新庄は、これでバレンタイン監督のために火の中にも飛び込む覚悟で、新庄一人の問題ではない、チームメイトも、自分のこととして、新庄に対する球団の行動をじっくりと見ているのである。それを承知の上での決定なのである。見事なマネージメントである。

し、時代の変化を見損ねた結果、仕事の仕方にも選択肢を失った。若い人も決して安心できない。コンピュータ・サイエンスに関する知識や技術は、アジアの国々の実情と比べても、決して十分なレベルにあるわけではない。そしてそのことが、若者の職業選択の幅を狭めている。

この選択肢の無さの問題は、小中学生にも及んでいて、相変わらず社会全体が同じ方向に子供を進ませようとする。そこからの脱落は、社会からの脱落となつてしまいかねない。子供たちのために、もっと豊富な選択肢を用意しないと、結局は社会の負担となつて帰ってくるだけだ。

「一七歳」の事件や、今回の残酷な行為の背後に、選択肢のない社会の病める姿を見る思いがする。